

2025年6月6日開催
2025年3月期決算
機関投資家様向け説明会 質疑応答サマリー

[Q1]: デバイス事業におけるデンソーと東海理化の海外を含めた売上高を知りたい。

[A1]: デンソー様向けで 1,392 億円、東海理化様向けで 116 億円となる。

[Q2]: デバイス事業の得意先別「その他」の売上増加は新商流によるものか。また、新商流は国内外で獲得しているのか

[A2]: 国内は「その他」に新商流の売上が含まれており、海外もあわせて全体で約 170 億円となる。

[Q3]: デバイス事業のエリア別売上でアメリカ向けが大きく伸びた理由はなにか。

[A3]: 北米におけるハイブリット車需要の増加と円安が追い風となった。当社においてはガソリン車と比較してハイブリッド車に対する 1 台あたりの供給金額が高い傾向にあり、売上のプラス材料である。

[Q4]: ソリューション事業の減益の要因はなにか。

[A4]: 売上構成の変化による利益率低下が大きな一つの要因。
利益を牽引する組込領域の最終ユーザーが中国で事業を展開していること多く、中国経済の停滞が売上に影響した。一方で、自動車の電装化・電動化に伴うライン投資を取り込んだ FA エンジニアリングが、事業全体の売上を下支えする構造となった。

[Q5]: 新商流 170 億円の利益への影響と、2026 年 3 月期にどの程度増加する見通しを知りたい。

[A5]: 商流拡大の取り組みは、車の電子構造の変化に対応した提案力を高め、将来の収益性向上を目指す施策の一環。2025 年 3 月期に獲得した新商流は、取引上の関係で利益率が一時的に低く抑えられており、同期間の利益率にはマイナス要因となるが、今後トヨタ圏でのシェア拡大を図り、デバイス事業の成長と収益性向上に繋げていく方針。

[Q6]: データプラットフォーム事業とグループ化したベラダティ社の業績影響、将来の見通しを知りたい。

[A6]: 2024 年 7 月にベラダティ社をグループ化したが、現時点での業績への影響は限定的。グループ化の背景には、データ分析プラットフォームを活用して顧客に価値を提供する高収益なビジネスモデルへの期待があり、既存事業とのシナジーを通じて将来的な事業価値の向上を目指している。具体的な利益や数値については現時点では差し控えさせていただく。

以上